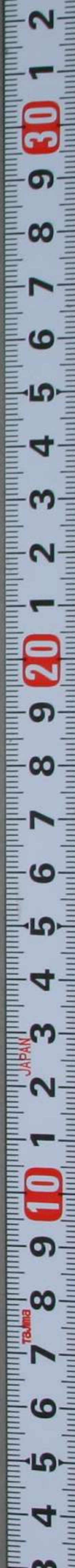


夫木和歌抄

卷第十四



利
1765
34



門 利
1765
94

151

3
2

1765

94

史本和譜抄卷第十四

雜部十六

神祇 神社 釋教 付寺

題

改頁



神祇 三行分

久世百有餘年中 戶系定形捕

あつたりのあつたつてしつてり社をいふとあつたつて
飛いしらりあつたつてしつてり社をいふとあつたつて

いふへいそつてり社をいふとあつたつて
社頭社尾

ありよつたあけの社をいふとあつたつて
社尾社頭

やとつたあけの社をいふとあつたつて
社尾社頭



神祇寺

唐舎仲房

石向
馬の代りありとあじなうらや
あすのすめりてあすのあ

長寺多神

坂上守女

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

ゆらりついで

あまの神祇寺

氏人の家

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

文永二年毎百首年日

神のうららひのれら神のみ
神のうららひのれら神のみ
神のうららひのれら神のみ

久要百首神祇寺

室屋の長

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

あまの神

あまの神

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

十歌百首

前中納言

あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ
あまのうららひのれら神のみ

三社并日

日

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

永く四年百首林

信長御旨

うらまひのいひのりたつたにたてあつたて

山本宗家の書

後醍醐天皇

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

ふたつ百首并合

おつたて

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

ふたつ百首并中

おつたて

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

おつたて

後醍醐天皇

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

遠く七年のいひのりたつたにたてあつたて

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

光長御旨

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

久安百首

前大納言

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

三社并年表

前中納言

あつたてのいひのりたつたにたてあつたて

422

西曆一九一九年一月一日...

谷津内お

万代をひらきおせよ... 萬代をひらきおせよ...

西一九一九年...

ふらたを...

西行道人

か... 玉神祇...

この年... 社...

二六九

二二四

...

...

...

...

...

...

轉粹

名之の木の根堀

法華元年百首

あはれし月日

久安百首

遠仁元年十首

徳見

かゝるし

久治元年

人志

百首

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

日

轉粹

名之の木の根堀

法華元年百首

あはれし月日

久安百首

遠仁元年十首

徳見

かゝるし

久治元年

人志

百首

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

太

徳ら

建永元年百首并合 光信朝臣

河内守藤原朝臣光信朝臣
の御書

成る法師母

月夜にささげし月夜にささげし月夜にささげし

之要百首并合中 長宗老御書

かきつらぬかきつらぬかきつらぬかきつらぬ

口言はるる首并合 法橋御書

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

かきつらぬかきつらぬかきつらぬかきつらぬ

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

十景一首

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

大森のきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに
あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに
あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりす

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

あまのさかやまのきりぎりすのこゝろに

松 ^{千年} 松 ^松

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新 新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新 新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新 新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新 新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新 新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新 新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新 ^新 新 ^新

新千巻一

あひんをあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

新千巻 かきうしん

かき かき

そのねをみりしそまう海あひのねさるわそのねの

達き十年かきんあひし百年新千

うしん かき

源伸

そのねのねつしんかきうしんかきうのねわさしうしん

ふね百巻 かき 新千

正三位

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

百首

新千

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

社 かき

新千

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

新千 かき 新千 かき

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

新千 かき 新千 かき

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

新千 かき 新千 かき

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

新千 かき 新千 かき

あひんあひんかきうしんかきうのねわさしうしん

831

仁安二年八月経巻の巻首の公

在東作行

あはれなる^{いと}心づかひの^つあはれなる^たあはれなる^た
仁安二年八月経巻の巻首の公

あはれなる^たあはれなる^たあはれなる^たあはれなる^た

百首年^{大京}

前中納言の巻首の公

あはれなる^思あはれなる^原あはれなる^思あはれなる^思

十歌百首納言の巻首の公

あはれなる^思あはれなる^思あはれなる^思あはれなる^思

建保四年百首

巻首納言の公

あはれなる^{熊野}あはれなる^{熊野}あはれなる^{熊野}あはれなる^{熊野}

あはれなる^{熊野}あはれなる^{熊野}あはれなる^{熊野}あはれなる^{熊野}

あはれなる

中納言

あはれなる^心あはれなる^心あはれなる^心あはれなる^心

百首年

巻首納言の公

あはれなる^浪あはれなる^浪あはれなる^浪あはれなる^浪

あはれなる

巻首納言

あはれなる^公あはれなる^公あはれなる^公あはれなる^公

あはれなる

巻首納言

あはれなる

寛治三年百首神社統たか 心三位太皇太后

神皇正統記神代卷 皇極經世一

神皇正統記神代卷 皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

皇極經世一皇極經世一

祝 三堂
Dear Mr. & Mrs. ...

おは

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

Dear Mr. & Mrs. ...

たのしみは春春の風を吹かす

久永又辛毎日音中非紙弁

幾斗代

民の由來

ゆきゆきの雪もあつた今
ゆきゆきの雪もあつた今
ゆきゆきの雪もあつた今
ゆきゆきの雪もあつた今
ゆきゆきの雪もあつた今

弘安日吉二お経弁 弘安日吉二お経弁

お天日吉の松の風を吹かす

通基名

お天日吉の松の風を吹かす

853

お天日吉の松の風を吹かす
お天日吉の松の風を吹かす
お天日吉の松の風を吹かす

浪三位内

お天日吉の松の風を吹かす
お天日吉の松の風を吹かす
お天日吉の松の風を吹かす

お天日吉の松の風を吹かす
お天日吉の松の風を吹かす
お天日吉の松の風を吹かす

三下
この年の日吉の神社の千本の樹より
の年日吉にまつて作られた
樹

建保四年日吉神社乃社

九条門大書

社
社
社

三社中
中

前中納言

あつれひの
あつれひの
あつれひの
あつれひの
あつれひの

三社歌
三社歌

推保

仁安二年二月
仁安二年二月

仁安二年二月
仁安二年二月

法橋

あつれひの
あつれひの
あつれひの
あつれひの
あつれひの

三社意

中道法師

三社歌

三社歌

三社歌

現存六

西葉 のさの非彦歌
衣笠の彦彦

あつて〜の目 港
永仁入書年 まゝ
前中納言後きん

家業末 Tear of a

和泉式部

よりのあふ 命 新 いん ち いん へ いん へ

富事法師

るりろの 光
このす 二下 中 社 中 中 中 中 中 中 中 中

くろく か くの か の か ち か も か ち か も か ち か も か ち か も

家業月守中 後納言

月守 い 一 い 二 い 三 い 四 い 五 い 六 い 七 い 八 い 九 い 十

Tear of a の 針 意程おる

ちの 拾玉三 ちの 拾玉三 ちの 拾玉三 ちの 拾玉三 ちの 拾玉三
り の け の る の び の ね の ち の け の る の び の ね の ち の け の る の び の ね の ち

前中納言定家

新拾遺神祇
建保三年四月廿六日
大藏省
御書

建保三年四月廿六日大藏省御書

大藏省御書

御書
御書の神代乃松のあらはのまのつとまのたしらの御書

御書社より乾月 西行上人

御書の御代乃松のあらはのまのつとまのたしらの御書

御書社百首出年 善徳和也

御書の御代乃松のあらはのまのつとまのたしらの御書

御書社百首 法二位源隆

御書の御代乃松のあらはのまのつとまのたしらの御書

建保三年廣回社市合連情判名後如也

及同法印

御書の御代乃松のあらはのまのつとまのたしらの御書

御書社より乾月 御書社百首合社御書

御書社

御書の御代乃松のあらはのまのつとまのたしらの御書

御書社 三行分上

御書の御代

建保三年十月廿六日合社御書

大藏省御書

らるるのいすのちるまは鏡

遠保二年名四百首 音集行

月影とあまのすまをまへんすくは海

寛治元年十首并合社以祝 仔細

花山院門太長

続古神祇

神々もすのふらむそのむこいの流の

千五百首並并合 仔細

そのむらひの事いさむのさうそあまの

久安百首 仔細

うもひのちのそと

文治二年百首神祇 兼中納言定家

うもひのちのそと

歌不系 大和 仔細

あまのむらひのさうのさうのさう

家集 仔細

西行上人

あまのむらひのさうのさうのさう

日 くらまの文 月影

らるるのいすのちるまは鏡

遠保二年名四百首并合

善徳和音

ありては憂世の人の心は... に任

お葉集 伊勢

西のり人

る... 社

お指歌 伊勢

信実の社

及の... 社

中務の親と... 社

あ... 社

建保元年十首... 社

あ... 社

百首の年

二... 社

お指歌社

お葉集の社

あ... 社

義元三年... 社

あ... 社

あ... 社

あ... 社

あ... 社

あ... 社

あ... 社

文永六年... 社

あ... 社

あ... 社

...の...
...
...

此安百首命 しんぶのま 検校法親王 まご

...の...
...
...

山集 しやうぶのま 後倉志大直 あくらつ

...の...
...
...

中務の...
...

...の...
...
...

...
...

...の...
...
...

西...
...

...の...
...

...
...

...の...
...

...
...

...の...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

しんりょうの社にふりかへりて

家系

小弁

あまのついでにみづのついでに

久安百首

都考院書院

あまのついでにみづのついでに

三十一人弁合

経函館長

新拾春上丁

あまのついでにみづのついでに

海河院の百首

大綱の師範

あまのついでにみづのついでに

三十一人弁合

好意

七

あまのついでにみづのついでに

百首百弁

海河院書院

あまのついでにみづのついでに

新撰弁

行遍

あまのついでにみづのついでに

寛政二年百首弁社統

あまのついでにみづのついでに

能野の

前中細の書院

あまのついでにみづのついでに

新撰百首意を

5

三十一人

海河院書院の百首

新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門

新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門

新編のい...
 考門

新編のい...
 考門

新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門

新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門
 新編のい...
 考門

いんごの文 片紙

百首并

皇太后宮太后

久遠の昔にわが國の文にあらはれし御書に御書に

御紙中

いんごの文

かき書

きりぎりすの文にあらはれし御書に御書に

文書に年々布麻社中

法橋師

いんごの文にあらはれし御書に御書に

承久四年百首

いんごの社

法華

いんごの文にあらはれし御書に御書に

百首并

皇太后宮太后

新後醍醐神祇

いんごの文にあらはれし御書に御書に

承久四年の文にあらはれし御書に御書に

いんごの文にあらはれし御書に御書に

御紙中

いんごの文

法華

新拾遺神祇

御紙中

法華

法華

いんごの文にあらはれし御書に御書に

御紙中

法華

345

わき
あまのつらさよにみちるるをり社のあまのつらさよをり社の

山家集 大和

福金志志長

今
あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

4
釋教 三行全十ん

あまのつらさよ

傍教源伝

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよ

あまのつらさよ

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよ

あまのつらさよ

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

葉
あまのつらさよをり社の

あまのつらさよ

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよ

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよ

あまのつらさよ

あまのつらさよをり社のあまのつらさよをり社の

あまのつらさよ

あまのつらさよ

とつあいの生苑のうへにたてたすくゝ^解あ脱の風にかまゝに
は花経すはあや序あ慈捨王位
^世

善法和あ

^法のいのちあまにまはるるにうらぬのあはれなまをい
^量度ふ流^衆生を救ふこと^捨

皇太后をなす御女

^{秋古}秋古秋古あまの御^柱もかゝるる^けらるる
^つ曇り^梅曇り梅極香風 西行と人

方便法は仏母を尊ぶ一大事同縁故出現於世

あまの御^つあまの御あまの御あまの御あまの御あまの御

善法和あ

あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御

目文

西行と人

あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御

深着於立歎如猫半愛尾

皇太后をなす御女

あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御

あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御

善法和あ

あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御あまの御

其中一命を慈を音子 備如也

新勅教 *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*

日記

西の人

Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*
Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*
Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*
信解 亦 亦 佛 亦 聲 亦 益 益

Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*
是河窮子也 父此言昂大欽長得未第也
Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*

西の人

吉野 *Yoshi no* *Yoshi no* *Yoshi no* *Yoshi no* *Yoshi no*

葉子 葉子 葉子 葉子 葉子

西の人

Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*
我觀一切善法 平等 平等 平等 平等 平等
Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*

西の人

春 *Haru* *Haru* *Haru* *Haru* *Haru*

西の人

Shin Chokko *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko* *Shin Chokko*

授記の心高遠を著し 善法

すいふはけのちからなる人々をいふはわろく神が

於未來世得成仏 悔ぬ

結十載教 悔ぬ けりてんさくせん世の事 知半

日文 西行上人

こそ操るる人々をいふはわろく神のさうりすまはたふん

化驗のあひま意怒力度苦惱滅生

悔ぬ

世の中家の苦をいふはわろく神のさうりすまはたふん

親等の中の苦をいふはわろく神のさうりすまはたふん

世の中家の苦をいふはわろく神のさうりすまはたふん

親等の中の苦をいふはわろく神のさうりすまはたふん

すいふはけのちからなる人々をいふはわろく神が

五百のあひま意怒力度苦惱滅生

すいふはけのちからなる人々をいふはわろく神が

日文 西行

すいふはけのちからなる人々をいふはわろく神が

日文 西行

すいふはけのちからなる人々をいふはわろく神が

すいふはけのちからなる人々をいふはわろく神が

あつたにたつてのうらみ ^哀 ^教

人記も壽命をうらみ ^命 ^故

かゝるうらみの ^命 ^哀 ^教

回文

西行

あつたにたつてのうらみ ^哀 ^教

日あつた ^献 ^世 ^入 ^因 ^白

は ^世 ^云 ^世 ^云

我教既満

善法

我教 ^婚 ^世 ^云 ^世 ^云

法師 ^世 ^云 ^世 ^云

まの ^世 ^云 ^世 ^云

漸見 ^世 ^云 ^世 ^云

千 ^世 ^云 ^世 ^云

一念 ^世 ^云 ^世 ^云

西行 ^世 ^云 ^世 ^云

まの ^世 ^云 ^世 ^云

宝塔 ^世 ^云 ^世 ^云

あつたに ^世 ^云 ^世 ^云

善 ^世 ^云 ^世 ^云

あつたに ^世 ^云 ^世 ^云

平托虚空而以遊行亦未為難

信

玉紙教

移諸天人置於他土

信

大

陀婆訶訶訶訶訶

日

海の月をわけて

醫中明珠

西

明玉

採薪及菓蔬隨時恭敬佛如石

新 離 初めは我を不我なり今世捨て去る

西行上人

何故憂色

信

何故憂色

何故憂色

深入禪定凡十方佛

深入禪定凡十方佛

あつちのつ 春 入

ゆふのつ 月 西行

涌出品 得成寂正覚悟をよははゆ

なごのつ 池 出

後地西涌出 備後

おのつ 父少而子 老

老 善法

おのつ 浦 又 老

壽量お命を全教物 日

おのつ 公のつ 別

ゆいをつ 速成統治身 日

おのつ 和

日

おのつ 月

おのつ 月

續右紙教 月 諸教

常在靈誓

おのつ 高 山 年

おのつ 別 地 徳 久 入 瑞 乃 場 益 徳 和 尚

おのつ

いふにや...
若生若経の除障常拱也

若生若経の除障常拱也

後如石

若生若経の除障常拱也

若生若経の除障常拱也

若生若経の除障常拱也

随喜功德也 如説而修其善無量

唐國 如説而修其善無量

如是展持教

善法也

如説而修其善無量

寂後才五十二... 後如石

新勅教 寂後才五十二... 後如石

日ある展持隨喜功德 在東由取

夜更 日ある展持隨喜功德 在東由取

此即西也 是人持け經安住希也

善法也

又如淨明法意也 諸法後如石

又如淨明法意也 諸法後如石

唯獨自明了餘人所竟西行之人

唯獨自明了餘人所竟西行之人

まゝに... (vertical text)

常不惛也 時乃得因是法華經曰

惠代... (vertical text)

我深敬汝等

二十... (vertical text)

而打擲之避走を任

... (vertical text)

佛力也 如來一切秘要

... (vertical text)

於滅度後應受持斯經是人於現在受定之

... (vertical text)

法... (vertical text)

... (vertical text)

能持是經者則為已見我 西行

... (vertical text)

屬累品 如世之勅

... (vertical text)

... (vertical text)

西行

... (vertical text)

今以付屬海等 後也
 命 命
 命
 命

日
 日
 日
 日

容顏甚善如光明照十方

廣
 廣
 廣
 廣

玉
 玉
 玉
 玉

命
 命
 命
 命

能救
 能救
 能救
 能救

日
 日
 日
 日

花
 花
 花
 花

馬
 馬
 馬
 馬

我
 我
 我
 我

法華深如海歷劫不思後修如也

らひんかけのあつてきまわればくまのたつたつて

日文

西行

あつてなるまのたつたつてのあつたつてのあつたつて

陀羅尼宗乃至夢中亦復莫惱

まのうらみかたのあつたつてのあつたつてのあつたつて

日文

備前

うらみかたのあつたつてのあつたつてのあつたつて

羅刹女号

善法

十のうらみかたのあつたつてのあつたつてのあつたつて

嚴王品願女放教等出

のあつたつてのあつたつてのあつたつてのあつたつて

又如眼之龜值浮木乳西行

あつたつてのあつたつてのあつたつてのあつたつて

日文

修女

あつたつてのあつたつてのあつたつてのあつたつて

日品

修女

あつたつてのあつたつてのあつたつてのあつたつて

あつたつてのあつたつてのあつたつてのあつたつて

あつたつてのあつたつてのあつたつてのあつたつて

尋は究學天と

御水

くろくろくろくの時 *くろくろくろく*

留め世中其の交指は經典を以て書

書

あつねのあ *あつね* *あつね* *あつね*

類考弁中

書

あつねのあ *あつね* *あつね* *あつね*

南の百首弁中

後書抄抄

月の下 *月の下* *月の下* *月の下*

書名名水水院煩悩塵

八重院の念

の *の* *の* *の*

十條師交弁中

安部門院四系

教 *教* *教*

久世百首 *久世百首* *久世百首* *久世百首*

名系と今入部名

あ *あ* *あ*

日経の

竹登門院塔

玉 *玉* *玉*

日

西門院書

の百廿年分

第百廿年

新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

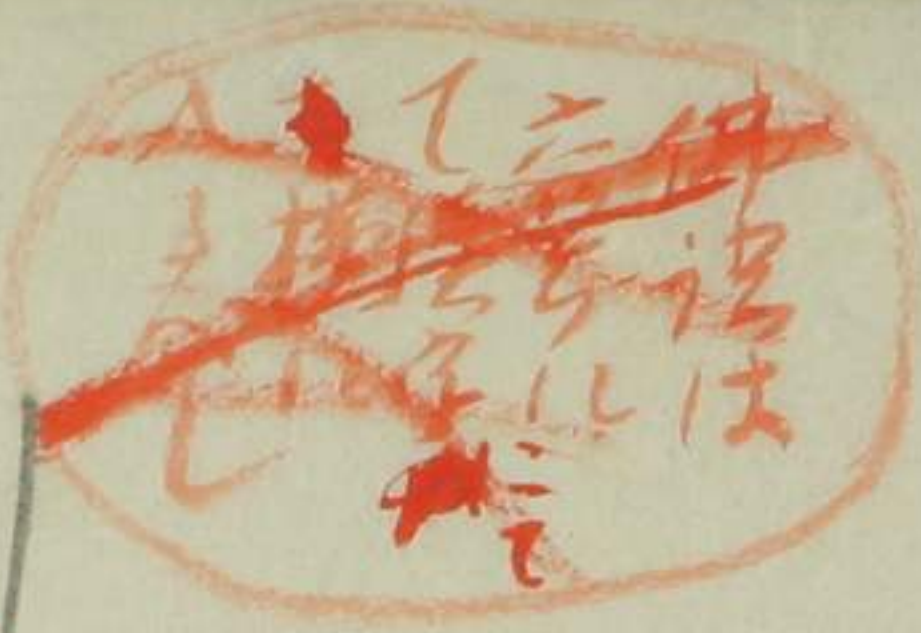
新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙



859

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙

新拾紙 新拾紙 新拾紙

可首の年
後名持院
雲の如く

古来歌
花あけつらうらな
花あけつらうらな
花あけつらうらな

現
百首の年
殿富門院大権
法市に澄

あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし

1011

日若社百首の年
大天
種時
若院

あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし

色
あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし

あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし
あはれわかし

新若社
法市に澄

Handwritten cursive text with red annotations, including the character 佛 (Buddha) written in red.

Handwritten characters in black ink, possibly reading "五指歌" (Wujizha).

Handwritten characters in black ink, possibly reading "長生不老" (Changsheng bu lao).

Handwritten cursive text with red annotations, including characters for "新言" and "化" (Change).

Handwritten characters in black ink, possibly reading "遊草" (Youcao).

Handwritten characters in black ink, possibly reading "佛光" (Buddha light).

Handwritten cursive text with red annotations, including the character 求 (Seek).

A section of handwritten cursive text with red annotations, separated by a red horizontal line above it.

Vertical handwritten characters in black ink, possibly reading "百首一人愛 八集院言倉" (Hundred poems, one person loves; Eight collections, words of the temple).



Handwritten cursive text with red annotations, including the character 求 (Seek) written in red.

Handwritten characters in black ink, possibly reading "世尊法師入唐書付 教書法師并" (The world honored the teacher's entry into Tang, entrusted to the teacher's book).

Handwritten cursive text with red annotations, including characters for "世尊" (World honored), "法師" (Teacher), and "教書" (Teaching book).

Handwritten characters in black ink, possibly reading "世尊法師" (World honored teacher).

Handwritten characters in black ink, possibly reading "世尊法師" (World honored teacher).

Handwritten cursive text with red annotations, including the character 目 (Eye).

Handwritten cursive text with red annotations, including the character 目 (Eye).

Handwritten cursive text with red annotations, including the character 目 (Eye).

続古紙教

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

観 欽 御 舟 船 日 親 船 和 船

花の院

花の院 花の院 花の院

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

鹿

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

1213

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

日

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

日

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

日

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

佛

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびき

あつらひらびきくまもあつらひらびきのあつらひらびき

あつらひらびき

Handwritten Latin text

久敷百首

季通百首

Handwritten Latin text

兼光百首

Handwritten Latin text

輔施百首

忠房百首

Handwritten Latin text

久安百首

長院百首

Handwritten Latin text

毎日百首

氏女百首

Handwritten Latin text

百年中

圓秋

日

Handwritten Latin text

百年中

日

Handwritten Latin text

文永中

Handwritten Latin text

同八年

日秋

Handwritten Latin text

達長

日

463

伝の... 信教源伝

^{方録}
^{住吉}

年七月中 江三信源啓

日忠録 乃家

...の...に...の...に...

百首... 百首...

在東内歌

...の...の...の...

...の...の...の...

傳教録

^續^千^紙^教
^{ねに}

も...の...の...

中務の...

三...の...

推信の...

親...の...

...の...の...の...

證書

あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき

5 三宮下 日 欲暎まは風の香珠をまきまきつた

那由多

常法師水觀

續寫る秋教 秋教

源堂上人

あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき
あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき
あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき
あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき
あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき

天長年中

日

あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき

5 三宮下 日 欲暎まは風の香珠をまきまきつた

讀人の名

玉秋教 哀

あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき

玉秋教

5 三宮下 日 欲暎まは風の香珠をまきまきつた

玉秋教

あつたの地のくらゐのさかすかにてはむらさき

5 三宮下 日 欲暎まは風の香珠をまきまきつた

不斷
中あり念の靈あり吾をよめまよと安置を
とてまづりて律儀と凡俗とがれぬ
念にしんと思ふてしんらん律儀のま
一の法の徳もてさうしんらん

凡教

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

寺
4三
5三

三行かん

念のついでに

念のついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

念のついでに

念のついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

念のついでに

念のついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

念のついでに

念のついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

永久四百首

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

念のついでに

1200

三〇〇
二二六
三

らんくわのむらさきの梅花のゆき
5) けいん院花巻
かきくわの寺のあまのこころ

六条路

信念

かきくわの寺のあまのこころ

寺代

日

かきくわの寺のあまのこころ

かきくわの寺

前殿の巻

かきくわの寺のあまのこころ

古寺月

日

かきくわの寺のあまのこころ

文永三年毎首中

由緒

かきくわの寺のあまのこころ

永仁元年九月十首古寺書状

ちとるの巻

かきくわの寺のあまのこころ

日

大納言の巻

かきくわの寺のあまのこころ

あまのこころの巻

巻の巻

そのころは ^に *... ...* ^{アキ} *... ...*

^{カキ} *... ...* ^記 *... ...* ^{雅中} *... ...*

^{カキ} *... ...* ^{西三ノ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...* ^{カキ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...* ^{カキ} *... ...*

六条路 ^{カキ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...* ^{カキ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...* ^{カキ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...* ^{カキ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...* ^{カキ} *... ...*

... ... ^{カキ} *... ...*

あつたてのついでに

其後

あつたてのついでに

今方由余を身ら書添仲

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

月つきのついでに 毎まい日にち 一いち日にち 一いち回かい 一いち回かい

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

後ご門もん院いん大だい師し

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

源げんのたがひ

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

白しろのたがひ

建けん保ぼ元げん年ねん八はち月げつ十じゆ日にち 又また秋あき月げつ十じゆ日にち 首くび弁ひら合あは時とき月げつ

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

鳳ほうのたがひ

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

龍りゆうのたがひ

分ぶんのついでに 毎まい日にち 一いち回かい 一いち回かい

舟
 舟久田平百首
 右京右衛門
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

舟
 舟
 舟
 舟
 舟

あふらひけむさしあはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あふらひけむさしあはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あふらひけむさしあはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あふらひけむさしあはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あふらひけむさしあはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あふらひけむさしあはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あはれん

あはれん

あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す
あはれん^しやうがく^すのあはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^す

あはれん^しやうがく^す

夫木和歌抄卷第三十四終

清言堂藏書

卷第三十四

